

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）が継続＞
北海道駒ヶ岳では、昨日（26 日）09 時頃から 21 時頃にかけて、山頂の浅い所を震源とする規模の小さな地震がやや増加しました。
火山性微動は観測されず、地殻変動には特段の変化はみられません。昭和 4 年火口の様子にも特段の変化は認められません。
地震回数の増加がみられましたので今後の火山活動の推移に注意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震の発生状況等（図 1～図 5）

昨日（26 日）の 09 時頃から山頂の浅い所を震源とする規模の小さな地震がやや増加しました。

26 日 09 時から 22 時までの地震回数は西山麓観測点で 4 回（速報値）、剣ヶ峯東観測点（山頂点）では 42 回（速報値）観測されています。その後、27 日 09 時 42 分に山頂点で 1 回観測された以外、地震は観測されていません。火山性微動の発生はなく、地殻変動や監視カメラで観測した昭和 4 年火口の様子にも特段の変化は認められません。

2001 年以降、山頂点では数年に一度、日 10 回を超えるやや地震回数が増加した日がありましたが、表面活動に特段の変化はみられていません。今回の活動はごく浅い所で発生している規模の小さい地震がほとんどであったため、山頂点での回数が多いものの、山麓の観測点での顕著な地震増加は観測されませんでした。

山頂点で地震が 10 回以上観測されたのは、2006 年 11 月 19 日（11 回/日）以来です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 29 情使、第 798 号）。

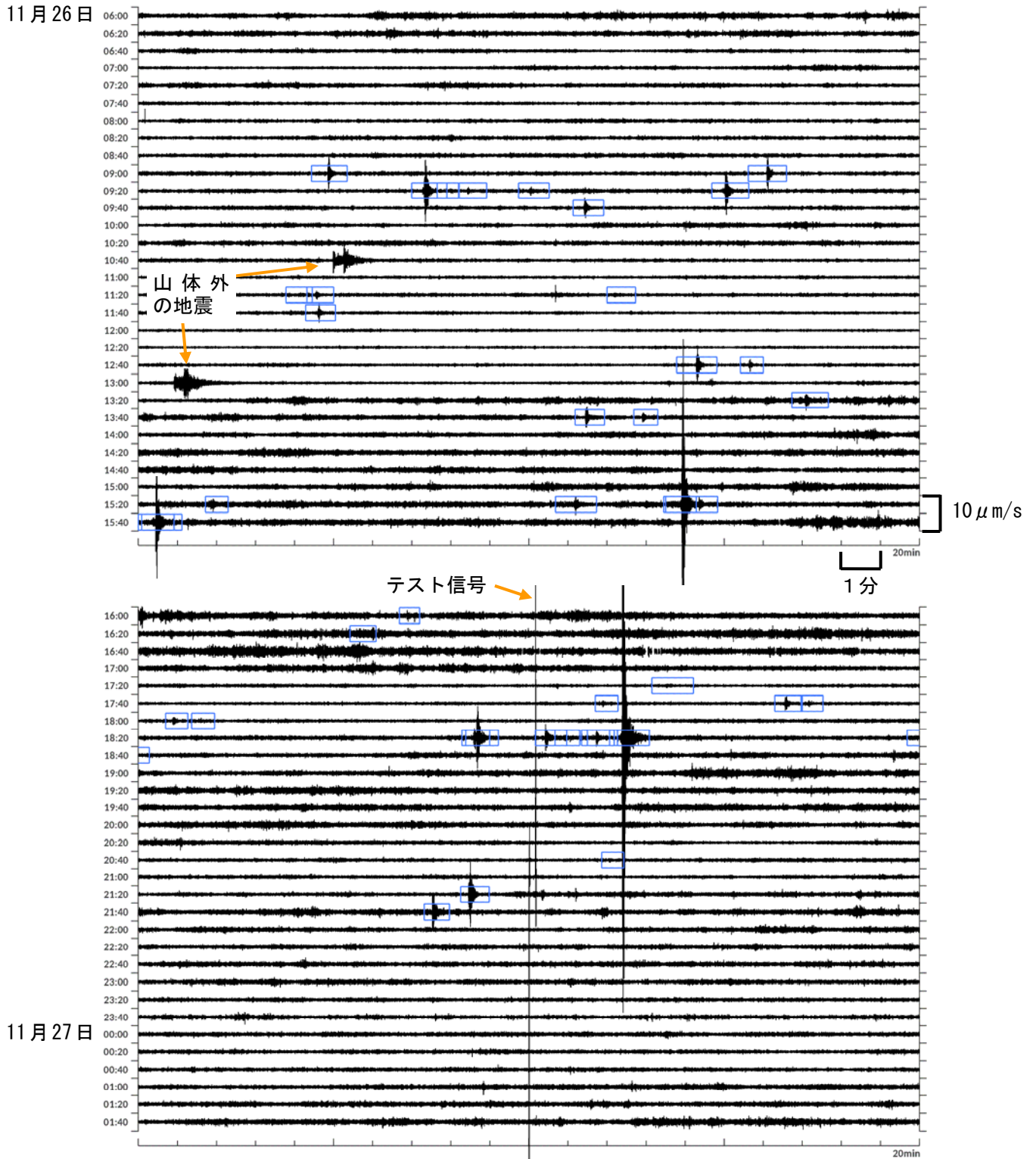


図 1 北海道駒ヶ岳 地震の発生状況 (11月26日06時~27日02時)

- ・ 砂原岳西 (山頂点) による速度波形 (上下動)
- ・ 青枠で囲った振動は火山性地震を示しています
- ・ 断続的にみられる振幅の高まりは強風によるノイズです

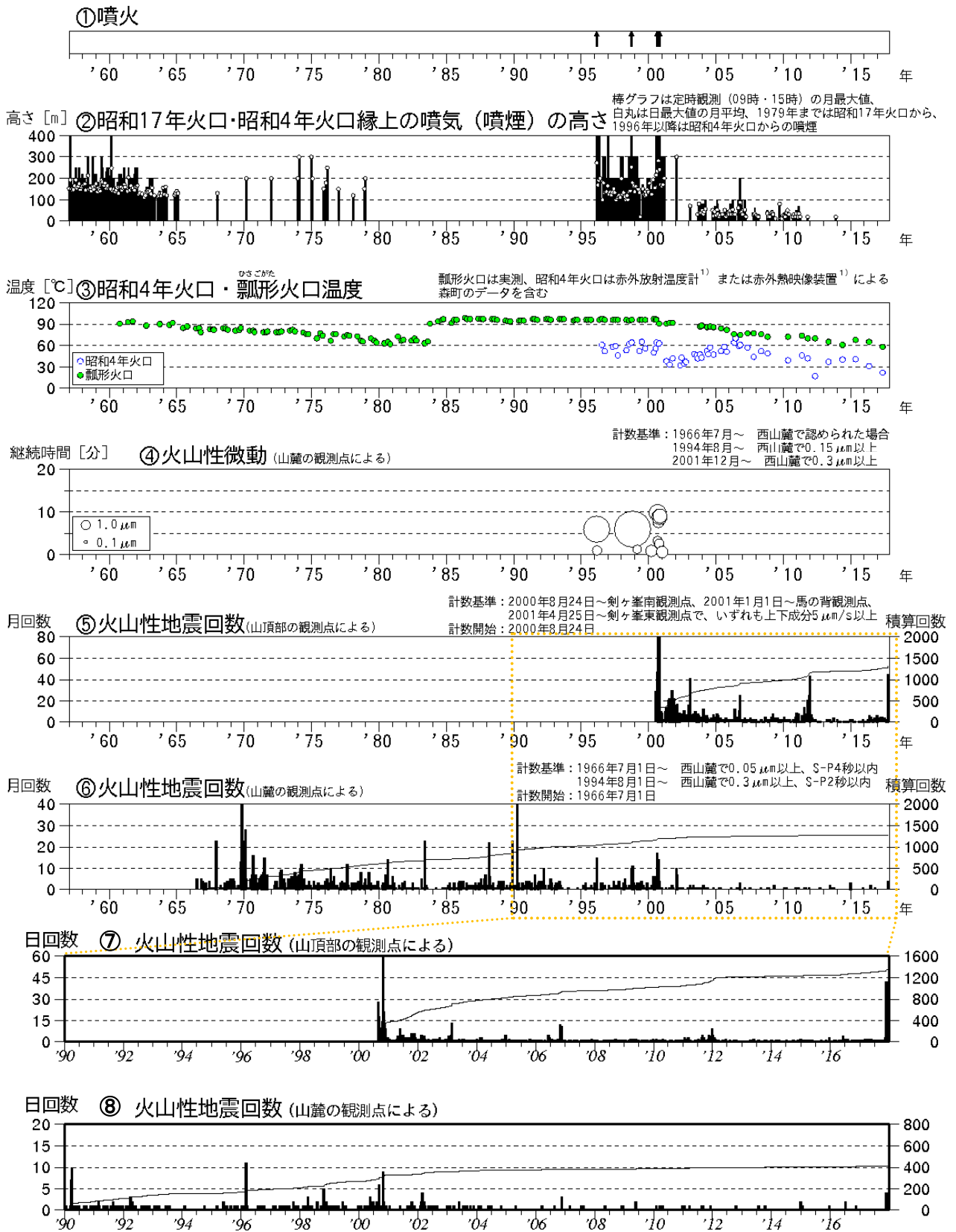


図2 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図

①～⑥ 1957年1月～2017年11月26日 ⑦～⑧ 1990年1月～2017年11月26日

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図3 北海道駒ヶ岳 東南東側から見た山頂部の状況
(11月26日、鹿部公園南東監視カメラによる)

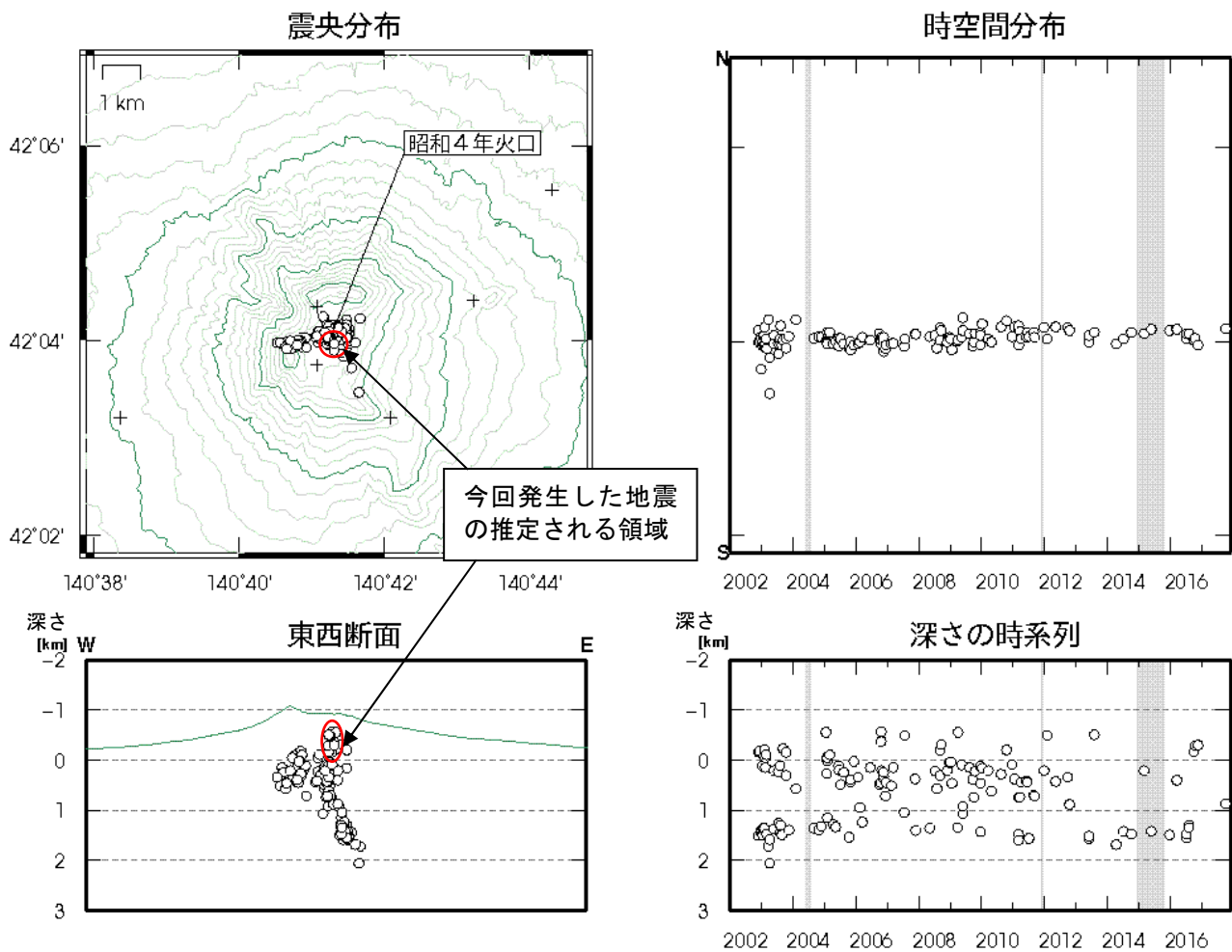


図4 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布 (2002年12月～2017年11月26日)
灰色の期間は一部観測点欠測のため、震源については求まる数の減少や精度の低下がみられます

- 印：2002年12月～2017年10月の震源
- 赤枠：今回発生した地震の推定される領域
- +印：地震観測点
- ・ 今回の地震は山頂のごく浅部で発生していると推定されます

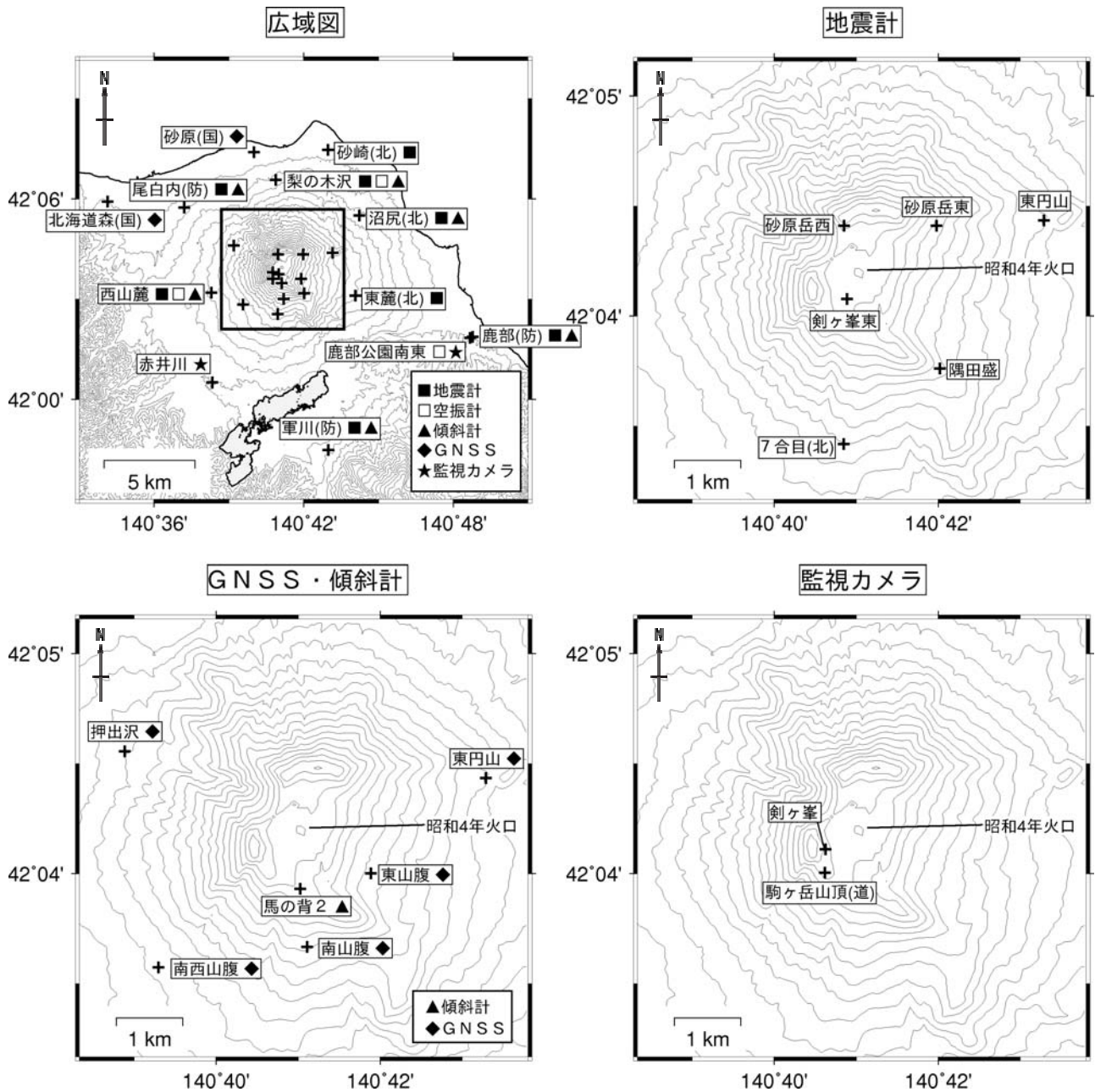


図 5 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです

+印は観測点の位置を示します

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学

(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所

(道)：北海道